

	公表	事業所における自己評価総括表	
--	----	----------------	--

○事業所名	高槻市立うの花療育園			
○保護者評価実施期間	2024年12月12日 ~ 2024年12月27日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	50	(回答者数)	37
○従業者評価実施期間	2024年10月22日 ~ 2024年11月 8日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	38	(回答者数)	34
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月28日			

○ 分析結果

	事業所の強み (※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
子ども支援	<ul style="list-style-type: none"> 多職種で協力し、子どもの支援を行なっている。 毎日の療育の中で、生活に密着した取り組みや、集団と個別での支援を行なっている。 給食提供を行なう中で、偏食や摂食、食事動作等の指導を実施している。 多職種によるケース会議や職員全体で研修会を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの状況に合わせた理解や表出段階を見極め、手段を取り入れている。 適切な支援を行なう為に、様々なテーマを設定し、課題だけでなく、支援の幅が広がるような内容を取り入れた会議や研修を実施している。 子どもの状態をより深く理解するために、発達検査等の評価を職員で共有し、日々の療育内容に活かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別支援計画にも、集団と個別の支援を組み込み、実施していく。 子どもの客観的評価は発達検査が主となっているので、行動面の評価ツールも用いて子どもを評価し(試験実施中)、特性理解や支援につなげていく。 現状の個別支援計画では、児童発達支援ガイドラインにある提供すべき支援の領域に対し曖昧である。様式を刷新し、五領域に応じた支援計画で令和7年度から作成する予定である。また、個別支援計画とセッションの計画は、相互に関連させて作成する予定である。
保護者支援	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の要望や相談に対する助言等を行なっている。 日頃から子どもの状況を保護者へ伝えていて、共通理解ができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 連絡ノートで詳しく伝えて他、さらに説明がある場合は電話にて丁寧に説明している。 保護者のニーズを聞きとる工夫として、個人懇談だけではなく、あそぼう会など保護者が来園する機会を設け、お子さんの様子を一緒に見ながら、支援方法を提案している。 保護者のニーズは、個別懇談や日常の連絡帳、電話でのやりとりにより十分に聞き取り、個別支援計画に反映させている。 家族支援の手法の一つとして、保護者向け講座やペアレントトレーニングを実施している。 保護者から質問や悩み、相談等には迅速に対応している。 相談内容別に定期ではない懇談の機会も設けている。 親の会活動に園として運営協力を行なっている。 保護者同士の交流は、親の会主催で交流の場を複数回設けている。また、クラス懇談や全体懇談会、保護者向け講座(おはなし会)で、保護者同士が交流や話し合う場面をほぼ毎月設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> お知らせやアンケートをメール配信化することにより、保護者が見やすく、目づ即時反応が分かるよう、集計しやすいように変更したが、保護者ニーズを即時に伝わるような工夫も必要である。 保護者や職員への連絡にメールやLINEを活用している。行事の案内だけでなく、日々のきめ細やかなクラスからの連絡にも活用している。 保護者とのやりとりは連絡帳や電話、直接伝える方法があるが、今後はSNSで双方のやりとりができる仕組みやルール作り、ICTの活用を今後も進めていく。
その他		<ul style="list-style-type: none"> 移行支援としては、安心して次の利用先へ進んでいただけるよう、書面及び口頭での引継ぎを行なっている。 	

	事業所の弱み (※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
ハード面	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが個別で過ごす部屋や、クールダウン専用の部屋等がないと感じる職員がいる。 マニュアルや個別支援計画等は、短時間勤務の職員が直接目に触れる機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 部屋数が限られている為、個別で過ごしたり、クールダウンしたい子どもがいる時に部屋が足りないと感じる。 マニュアルや個別支援計画等は、短時間勤務の職員が直接目に触れる機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 部屋の数やスペースに限られているので、効率よく使用する方法を検討する。 クラス間で取り組みの違いがあるので、意見交換しながら、工夫を取り入れていく。 情報共有のデジタル化
ソフト面	<ul style="list-style-type: none"> 人が足りないと思わせている状況をどう改善するのか? 職員がより細やかな支援を行ないたいと思うため、職員体制や場所の使い方に難しさを感じている状況がある。 職員の勤務体制に時間差がある。子どもへの直接支援時の時間は整備できているが、議事録等の書類に目を通す時間の確保が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の振り返りについて、全体では難しいが、出勤時間の重なる職員同士で降園後に行ない、他の職員とは連絡ボードや児童記録で情報共有を行なっている。 	<ul style="list-style-type: none"> クラスによる取り組みを見直し、支援の在り方の改善を目指していく。
その他	<ul style="list-style-type: none"> きょうだい児支援への取り組みとして、行事への参加は奨励しているが、きょうだい児支援を中心としたイベントや交流、講習は十分とはいえない。 	<ul style="list-style-type: none"> 平日や通常の療育時間内に、きょうだい児支援を行うことは、時間的や人員配置的に難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在実施している園行事の中に、きょうだい児が参加した時の過ごし方や参加しやすくなるような活動を検討する。